



「進学の熊西」熊谷西高等学校 進路主事だより



West (第17号)

2022.11.25. 平井 利久

「仲間と共に前進を！ ～最後はガッツ～」

●徐々に朝型に変え、試験日までの「具体的」なプランを決め、最後の追い込みを。我慢の時です。この受験を通して、自分の学力をアップさせるのはもちろんですが、それ以上に人間的にも大きく成長してほしい。受験勉強の辛さから逃げずに、真正面から立ち向かって勝負する者は、精神的にも強くなり、教科内容も身に付き、人間的視野も広がります。人生のどこかの過程で絶対に役に立つのです。自信を持とう。

●隣の仲間を意識しよう。共に支え合おう。弱気になった仲間を鼓舞しよう。先生方も、受験勉強を経験してきました。多くの事を考え、悩み、克服してきました。苦しんだ数ほど含蓄があります。だから、皆さんの悩みに少しは答えられると思います。また、これからの3ヶ月間、「みんなで頑張っているんだ」という意識を持ち続けてほしいと思います。この意識こそが、熊谷西高校第46期生を支えてきたのです。残された日々は少ないですが、一日一日を大切に過ごせば、まだまだ多くのことができます。体調に気を付けて頑張ってください。

●受験はその人の生き様、積み重ねが総合的に問われるハードルでもあります。受験は、学力と偏差値と志望校だけを考えて突破できるものではありません。個人の今までの意識や生活の積み重ねといった学力だけでは及ばない個人の要素が、合否を左右します。受験は大人になれないと克服できません。自己顕示欲のために合格を掴むのではなく、自分のため、周囲の期待に応えるために頑張ろう。

●最終的には、学問や学習を通じての人間形成。冷静で、平らで、自分を客観視でき、常に謙虚。安定感がある、感謝の心のある人間への成長を期待します。

【共通テスト本番に向けての確認事項】

<優先順位をつけて問題を解くこと>

時間を有効に使うためには、問題を解く順番も大切。解き始める前にすべての設問に目を通し、確実に解ける自信のある設問から解くよう心がける。

<自己採点を正確にする>

国公立大の個別学力検査の出願は、共通テストの自己採点結果をもとに決定することになる。自己採点を正確に行うため、受験中は解答番号を問題冊子に必ず控えておく。

【解答上の重要事項 ～1点たりとも無駄にしない～】

- わからない設問があっても、すべての設問にマークすること。
- 訂正をする際には、跡が残らないよう完全に消しゴムで消すこと。
- 1つの設問に2個以上のマークをしていないかを確認すること。
- 「記入欄のズレ」などはないか、問題冊子と突き合わせて確認すること。

【学習面での重要事項】

- 模試や問題集で、不安定な問題を確認しておく。
- 共通テストの出題形式に慣れる。(模試や問題集の活用)
- 時間配分の感覚を身につけておく。(時間内に解き終える練習をする)
- 地歴公民、理科の受験する順番をあらかじめ決めておく。(「第1解答科目」と「高得点科目」のどちらを合否判定に利用するかは大学によって異なるので要注意。大学の募集要項を確認する)

- 自己採点が正確にできるように練習しておこう。
- 1科目につき、あと2問ずつは確実に解けるように意識しよう。(1問は2~4点ある)
- 絶対に落とさない科目を決める。(取れる科目・分野で確実に得点できるように)

【生活面での重要事項】

- 共通テスト開始は9:30から、夜型から朝型へ生活習慣を切り替える。
- 体調管理に注意し、いつも通りの食事をする。
- 受験勉強中に迎える年末・年始。生活リズムを崩さないように気をつける。

共通テストや私立大の入試に挑む受験生にとって、大手予備校が実施する公開模擬試験がほとんど終了してからの冬の時期は、力試しをする機会が減ることから「何を」「どのように」進めたらいいのか、大いに不安になる時期でもある。

これから年末に向けての受験勉強の最大の目標は、これまでに身につけた基礎力を入試問題で得点する力＝「得点力」に高めていくことだ。本番までの残り時間を最大限に活かせる効果的な戦略を立て、得点力を磨き上げていこう。1次2次の配点差もあるが、12月に入ったら学習内容をいったん共テ対策に絞って、過去問や予想問題の演習を繰り返したい。そして、共テ後は受験する国公立大や私立大の過去問に時間の許すかぎりあたって、本番で実力を出し切って合格を勝ち取るための最終調整をしよう。

◆「12月から」やるべきこと◆

1 問題演習 <問題演習で得点力を磨こう・その量と質が合否を分ける>

いくら基礎力が身につけていても、本番の試験で得点できなければ意味がない。そこで、基礎知識を的確に応用して入試問題の正確を導く「得点力」の養成が課題となる。そのための最も効果的な学習法が「問題演習」だ。しかし、ただ多くの問題にあたって、当たっただけの外れただけの、一喜一憂に浸って、答え合わせをするだけではダメ。一問一問を大事にする。その中で、何の知識がどんな形で問われるのかを意識しながら問題を解き、その後は解説を読んで正しい解答プロセスや不足した知識をきちんと確認する。これからの問題演習の「量と質」が合否を分けるといっても過言ではない。

2 過去問 <志望校の過去問を演習して出題形式・傾向をつかもう>

共通テストや各大学の入試問題には、それぞれ異なる出題形式や傾向がある。そうした個別の特徴をチェックして効率的な受験対策を進めるための必須アイテムが、これらの「過去問」だ。ある程度、標準的なレベルの問題が解けるようになってきたら、志望校の過去問にも積極的に取り組もう。

過去問の取り組み方のポイントとしては、最初はあまり時間を気にしなくてもいいので、じっくりと考えながら問題を演習し、傾向に即して各分野の穴を埋めていくように心がけよう。そして、受験が近づいてきたら、時間を計って各科目の問題全体を制限時間内に解答するトレーニングを積み、時間配分のコツなどをマスターするようにしたい。

3 得点戦略 <合格点の確保を目指して、より伸びるところを重点対策>

受験勉強のタイムリミットが迫ってくる。その限られた時間の中で、全分野を完璧に仕上げることが不可能に近い。しかし、入試で満点を目指す必要はない。合格最低点を突破すればいいのだ。

そこで、各大学から発表される例年の合格最低点(一般に満点の6割前後が多い)や過去問をチェックして、これからの学習で、どの科目・分野の得点力をどのくらい伸ばして合格点を確保するのかという「得点戦略」を検討しておきたい。また、その際は、自分の得意・不得意に過度にこだわらず、残った時間でより得点の伸びが期待できるところを重点的に対策することを考えよう。結局は総合点がモノを言う。

4 模擬試験 <過去に受けた模擬試験を有効“再活用”しよう>

保管して数ヵ月後に解き直してみる努力をしてきた人は「合格」へのステップを確実に歩んでいる。

【コンパスの活用】

志望先を考えるとときに役立つのが「コンパス」です。各担任の先生に話してコンパスで志望校判定等の条件検索をしてみましょう。

「コンパス」では以下の内容が検索できます。

- ①自分が志望する分野が学べる大学の一覧。
- ②前年度の各大学合格者（と不合格者）の模試成績分布の中での自分の位置を確認する。
- ③得点シミュレーション：あと何点とれば合格かのシミュレーションができます。
- ④入試カレンダー：出願締切日、入試日、合格発表日、手続き締め切り日が一覧形式で表示され、第1志望校合格に向けてどういうスケジュールを組んでいけばよいかわかります。

<コンパス利用の注意点>

「コンパス」では、学部・学科等の内容にまでふみ込むことはできません。志望校のパンフレットや募集要項で確認することです。また、コンパスで、偏差値による判定でBの大学が見つかるなど有利な条件が見つかるのとそちらへ受験したくなる誘惑にかられることがあります。そうしたコンパスの情報だけで志望校を決めないようにすること。

【理・社はまだまだ伸びる！！】

現役生は、まだまだ学力が伸びていく。特に、理科・社会が伸びていく。ベネッセの資料によると11月の共通模試から「共通テスト」までの英数国の得点率の伸びが10%もある。社会は20%近く伸びるケースもある。理科も学校の授業で入試の範囲が終わる時期。学力が点数になるのはこれから。焦らずコツコツ受験勉強を続けてほしい。

また、他校の情報によると、早稲田文系は、英語と地歴・公民で決まると言っても過言ではないようですが、国語が一番大切だと早稲田の教授が言っていたとのこと。3教科手を抜かず、3教科のプロフェッショナルになれということです。

理系では理科が大切です。たとえば、東京理科大では多くの学科で、英語、数学、理科（1科目）がそれぞれ100点満点で合計300点満点です。理科は数学、英語と同じウエイトです。冬期休業を利用して補強すること。理科・社会はこれからも伸びていく。教科書や参考書、解答集を読み直し、基本に戻り、再整理をし、問題演習に取り組むことです。焦りは禁物です。

【私立大共通テスト利用入試の活用について ～出願の利用の目安～】

	共通テスト単独型 (共テ出し切り型)	共通テスト併用型 (共テ・個別併用型)
合否	共通テストの点数で合否判定	共通テストと、個別試験の総合点で合否判定
出願の利用シーン	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出願目安は A・B 判定 ■ 併願抑えとして、判定や合格者最低点から、ある程度合格可能性が望める場合 ■ 併願割引で出願しやすい等、合格可能性を広げる手段として ■ 国公立型など、4・5教科勉強してきたアドバンテージを生かせる場合 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出願目安は C 判定だが、C判定未満でも合格可能性はある ■ 志望度が高い大学で、併用型が主要な入試方式の場合は「本命受験」として ■ 併願校において、併用型の入試方式が倍率などから見てねらい目な場合 ■ 国公立型など、4・5教科勉強してきたアドバンテージを生かせる場合
出願時のチェックポイント	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前出願か、事後出願か <ul style="list-style-type: none"> ↳【事前出願】…共通テスト自己採点集計で合格可能性がC・D・E判定の場合、追加出願検討の必要性がある。 ↳【事後出願】…出願を予め確認し、共通テスト自己採点集計の結果を基に期日までに 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前出願か、事後出願か <ul style="list-style-type: none"> ↳【事前出願】…共通テスト自己採点集計結果から、個別試験での目標得点を計算。その点が厳しい場合、追加出願の必要性がある。 ↳【事後出願】…共通テストの判定に一喜一憂せず、個別試験の目標得点を基に出願判断。出願を予め確認し期日までに
注意点	判定は絶対ではないため、併願校を共通テスト単独型のみとするのは推奨できない	共通テスト：個別試験の配点や科目を基に、目標得点を見極め対策する必要がある
メリット	共通テストの結果のみで合否が出るため、受験の負担が少ない	共通テストと個別試験の負担から、競争相手が少ない傾向にある
デメリット	事前出願の場合、共通テスト当日得点次第の「一か八か」になる。	共通テストも個別試験もどちらも対策が必要になり、受験および勉強の負担感がある

【今後の注意事項】

- ①願書はできるだけ年内に入手。(郵便が混み合う、共テ後は願書の申し込みが殺到し、遠距離で届くまでに時間がかかる)
- ②受験用写真の準備
- ③調査書作成願(年内に担任へ提出) <余裕を持って>
- ④第一志望設定で、共テでの目標点を設定する。どの科目で何点取り、そのためには冬休みにどのような学習が必要か考える。得意科目も学習できる時間配分を、さもないと、勘が鈍り、思わぬ失敗につながる。メリハリをつけながらも取りこぼしのない計画を立てる。共テ試験後の私立や二次試験についてもイメージを持つ。
- ⑤最終出願校の決定。
 - (1) 原則として第一志望は譲らない。
 - (2) 後期試験は半数が欠席する実態をよく理解し、最後まで諦めず頑張り抜く。
 - (3) 現実により得る浪人について・・・浪人するかどうかは個々の特性で判断する。後期まで頑張り抜く。最後まで頑張ってから浪人でないと浪人しても伸びない。
- ⑥私大・国公立の倍率が発表されるが、怖じけない。倍率ではなく、受験生の層が問題。

《私立大は1回1回が勝負》

(あ) 複線入試

(い) 併願の弊害に注意!・・・入学手続きの締切日に注意

試験日が異なれば何校でも併願できる。また、複数の大学に合格した場合、それぞれ所定の締切日までに入学手続きを済ませれば、いずれの大学の入学資格も失うことはない。ただし、第一志望校の合格発表前に他校の入学手続きの締切がある場合、手続きを行うべきか(入学金を支払うべきか)で悩むことにもなりかねない。しっかり日程を確認しておきたい。

- ⑦国公立入試までに期待以上の私大入試で合格すると、入学金の納入も重なり、結局、国公立大受験をしない生徒が出てくる。(特に共テで失敗し、難度を下げる志望校変更をした場合)。安易に私大進学を決定してはいけない。**中期、後期まで必ず受験して下さい。**

- ⑧合格後の入学手続き日程・必要書類・初年度納入金とその納入方法などを確認。

入試に関する Q&A

Q1 もし事故や病気などで共通テストが受験できなくなったら?

事故や病気などのアクシデントが起きた場合は、受験生本人または代理人が、速やかに「受験票」に記載されている「問い合わせ大学」に行き、申請すれば追試験を受けることができる。申請の受付時間、詳しい方法等については、受験票・写真票等と一緒に送付されている「受験上の注意」に明記されている。なお、2023年度共通テストの追試験は1月28日(土)・29日(日)に実施予定。

Q2 共通テストの得点調整とは?

共通テスト終了後、大学入試センターでは、各教科で選択科目ごとに平均点を算出する。その平均点に原則として20点以上の差が生じ、それが試験問題の難易差に基づくものと認められた場合には、平均点が低い科目を受験した受験生が不利にならないよう、得点差を調整する。なお、2023年度大学入試センター試験の得点調整実施の有無の発表は1月20日(金)の予定。

Q3 「二段階選抜」とは?

一部の国公立大で行われる選抜方法のこと。いわゆる足切りのこと。個別学力検査の前に共通テストの成績などにより第一段階選抜が行われ、合格者のみが個別学力検査を受験することができる。志望校が二段階選抜を行うかどうかを確認する必要がある。